



「こんな町がいいなあ」 「愛・なん」でも語ろう会

愛南町では、厳しい財政状況の中「最小の経費で最大の行政サービスを提供する」という地方自治の基本に立ち返り、事務事業の見直し等、望ましい行政組織・機構のあり方について検討を重ねています。また「めざすべき愛南町の姿」について、地区別懇談会等、多様な機会を通じて、幅広い町民の皆様のご意見を伺う体制を整えています。

その一環として、毎年「愛・なん」でも語ろう会を実施しています。今年度も、次代を担う若い方々にスポットを当て、行政組織やまちづくり全般について、自由に語り合っていましたので、その主な内容をご紹介します。

(町長) 本日は、お忙しい中、4回目となる『「愛・なん」でも語ろう会』にご参加いただき、誠にありがとうございます。私は「可能な限り多くのご意見を伺い、皆様の行政に対する要望や期待を理解した上で、町政を進めていきたい。また、行政の取組を積極的にお知らせし、透明性や公平性のある行政組織を確立していきたい」そんな思いで、町政運営に取り組んでいます。

広報紙等でもお知らせしていますが、私は、本町の豊かな自然環境を保全すると同時に、第一次産業を活性化する方法が、愛南町のまちづくりには必要ではないかという思いを強く抱いています。現在、取り組んでいる「愛なんブランド」の推進についても、まだ、道半ばではありますが、水産業の活性化をめざす愛媛大学南予水産研究センターの強力な支援をいただきな



がら、粘り強く進めていきたいと考えています。この取組について、柑橘栽培をされている猪野さん、何かご意見はありませんか。

(猪野) 河内晩柑は、全国的にも優位性のある商品ですが、各組合の存在、みかんの売り方等、それぞれ違った状況があったと思います。急に、河内晩柑の名称を「愛南ゴールド」にしようといわれても、今までの取組はなんだったのかというような思いがありますので、町長さんの意見を伺いたいです。

(町長) 河内晩柑の名称については、美生柑や宇和ゴールドなど、それぞれ違った商品名があったと思います。そのため、販売促進の面からも、消費者

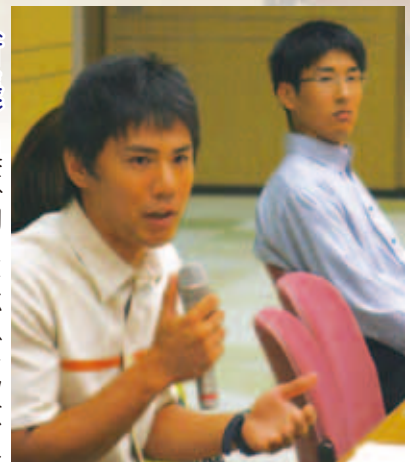


に分かりやすく、統一感のあるブランド名の方がいいのではというところで、農業関係の各組合等と町で協議をし、公募により「愛南ゴールド」という名称に決まりました。決して、町が強制的に「愛南ゴールド」にしてください」ということではないので、ご理解いただきたいと思えます。

また、柑橘類を含め、今まで努力された独自のブランドを持たれる生産者等に、強制的に「商品名は、こうしましょう」ということは、行政ではできないと考えています。

将来的には、それぞれの生産者で協議をいただき、他の商品も消費者から見ると統一感のある名称ができればと願っています。その商品を総じて「愛南ブランド」という町のイメージが確立できればいいと思っています。それでは、海の方で仕事されている武久さんは、今のことと関連して、何かご意見はありますか。

(武久) まだ、宇和海に入社して間もないのでよく分かりませんが、養殖分野のように、他の分野も伸びていったらいいなあと思っています。



(町長) 具体的には、どんなことですか。

(武久) 養殖が伸びていったように、加工品も「愛なんブランド」として積極的に販売できるところまで伸びていったらいいと考えています。

(町長) 私も、そう思います。もちろん、本町の魚は鮮度もいいので、そのままでも十分にいい訳ですが、手を加え、加工することでも持ちも良くなるでしょうし、新たな雇用も生れると思います。

今まで、東京や松山での産直市等で、柑橘と魚、特にマダイ、カツオ、小魚など、とてもいい素材だという評価をいただいています。少しずつですが、専門家に愛南町の特産品が認めただけのようになりました。将来的には、愛南町に来

て、旬な食材を食べてもらいたいと思っていますので、観光客の招致等に力を入れていきたいと思っています。

続いて、水産関係に携わっている伊藤さん、何かご意見はありますか。

(伊藤) 私が愛南町に来て感じたことは、料理が美味しいということだと思います。私は「ブランド」を創るという時に、リピーターを増やすことが大切だと思います。すぐに覚えてもらえるようなキャッチコピー、インパクトのある言葉で愛南町をアピールしていけばいいと思います。

(町長) 私も「一度、来ていただいた方に、また訪れてもらう」ことは、交流人口を増やす上で、とても重要だと思います。みしょうMCCに勤められている大西さん、何かご意見ありますか。

(大西) バスツアーで来られるお客さんには「二度と会えない」というつもりで、商品の説明など、聞かれたことに正しく答えられるように勉強しています。一度の接客で、町のイメージを悪くしないよう、心掛けています。

(町長) 頑張ってください。



ちよつと、視点を変えて、現在、新たに起業をめざす方を支援する制度「起業化支援助成金交付事業」を創設していますが、菊地さんは、何かご意見ありませんか。

(菊地) 行政の支援はありがたいと思いますが、私たち業者も、加工品の価値を高める等、もっと努力することが必要だと思います。

今後、漁獲量の減少も予想されますので、学校給食で利用してもらうとか、新たな販路を模索していきたいと考えています。

(町長) 行政として、できることは支援していきますので、是非、

頑張ってください。

私は、観光を考える上で、自然環境をどう保全していくかというところが大切だと思っております。そこで、環境衛生課を中心に、環境浄化等の取組を進めていますが、その点について、何かご意見はありませんか。

(山口) 私は、4月に愛南町に来たばかりですが、海も山もとてもきれいな状態で残っていると思います。できれば、これ以上、汚すことのないようにしてほしいと思います。また、私たちは、愛媛大学南予水産研究センターで環境に関する研究を行っておりますので、町の自然環境の維持に貢献できればいいなあと考えています。

(町長) とても心強く思います。それでは、倉田さん、子供たちへの環境教育は、どんなことを行っていますか。

(倉田) 私の勤める一本松小学校は、児童が自ら学ぶ力を養うことを目的とした「学力向上実践研究推進事業」の指定校になっていきます。そのため、公園や通学路等を月1回、全児童が清掃するなど、町の自然や暮らしについて子供たちと一緒に学んでいます。また、私は久良に



住んでいます。幼少の頃に比べると、海の中のゴミが目につきます。汚くなっているなと感じています。子供だけではなく、大人も一緒に清掃活動をする必要があります。町長さんが言われたように、美しい海を取り戻すことが、地域の活性化にもつながると思います。

(町長) ありがとうございます。岡原さんは、何かご意見ありませんか。

(岡原) 私は休日に、子供を連れて公園に遊びに行きますが、ペットボトルやビニールのゴミ袋などが捨てられているのをよく見ます。環境問題は、私たち

の生活からでるゴミを適正に処理することで、かなりの部分、改善されることがあると思います。一人一人が町を愛する心を持ち、ゴミの分別等に気を付けてほしいと思います。

(町長) 同感です。岡原さんが言われたように、皆さん一人一人が「地域の自然環境を汚さない」という意識を強く持つことが大切だと思います。そんな思いを込めて、今年から希望するご家庭には「えひめA-2」を配布させていただきました。どなたか、使われた方はいますか。

(山下) はい。私は、すごく気に入って使っています。この前、上大道地区で「えひめA-2」の作り方の講習会があり、いろんな使い方ができるのを知って、台所やトイレ掃除の消臭などに使っています。

(町長) そうですか。特に、臭いを消すという面では効果があるようです。多くの方に積極的に使ってほしいと思います。それでは、若い女性の方もいますので、子育てのことに話題を移したいと思います。安田さん、何かご意見はありませんか。

(安田) 私は、はまゆう保育所

に勤めています。仕事をしていないので保育所に入れないという声を聞くことがあります。特に、求職中の方など、安心して子供を入所させることができるようにしてほしいと思います。

(町長) 求職中ということが証明できれば、入所はできますので、保健福祉課で相談してください。

(安田) おじいちゃん、おばあちゃんがいなくても、入所できますか。

(澤近城辺保育所長) その方の家庭状況等によって違います。保健福祉課で相談してください。

(島津) 人によっては、働いていないので相談してもだめだろうと、一人で悩んでしまう方もいると思います。保育所の入所等、子育て支援について、もっと住民に周知してほしいと思います。

(澤近城辺保育所長) 町では、保育所の入所については、広報紙等でお知らせをしています。そういう方がいましたら、遠慮せずに保健福祉課に相談をしていただきませう、お知らせをしてほしいと思います。

(副町長) 現在、町では、1カ月に1回くらいですが、子育て相談をしています。相談には、保育所に入所していない方も来られます。



ので、そんな機会に情報交換をしていただけだと思います。また、城辺保健福祉センターには、児童福祉や母子等の専門的な知識を持った保健師もいますので、是非、皆さんからも、利用していただきませう、お知らせをしてほしいと思います。

町としては、特に、若いお母さん方のご意見をできるだけお聞きし、町政に反映していこうという体制を整えていますので、一人で悩まずに相談をしていただければと思います。

(野平) 私も、隣近所に預ける

ということが難しい方が多いと思うので、一時保育的な支援は必要だと思っています。

(宮本) 子供を育てにくい町からは、町外へ出て行くと思います。私も、四万十市から愛南町に来ていたので、おじいちゃん、おばあちゃんもいません。ですから、この町で子育てをするということを考えると、子育て支援を充実させてほしいと思います。

(町長) 子育て支援に関連して、三好さんは、公民館活動で小中学校の子供たちと、関わることが多いと思いますが、何かご意見はありませんか。

(三好) 今までの話しを聞いてみると、少し疑問に感じています。私は、しつけの面からも、せめて3歳までは親が責任を持って接することが望ましいと考えています。私も、町外から柏に来ました。子育てしやすい環境にしてほしいということも分かりますが、最大限、自分が努力することが必要だと思えます。自分のわがままばかりを要求してはいないかということも、考える必要があると思います。自助努力なしに、無いものを求めるばかりでは、自治会活

動等、町民の融和というか一体感は生れてきません。広報紙でも、地域で子供を育てようということがよく書かれていると思います。

今一度、私たち若い親が、子供のしつけについて、他人任せにしないということを強く認識することが大切だと感じています。

(町長) 昔は、三好さんのような考え方が正論だったと思います。感情的には、私も同感です。家族構成等、昔とは随分変わってきている面もありますので、やはり、子育て支援は必要だと認識しています。

それでは、もう時間になった



ようですので、最後に、町の財政状況等をお知らせしたいと思えます。私の方からは、住民参画手続実施要綱について、簡単に紹介いたします。この制度は、町の重要な施策について、住民の皆さんに計画を公表し、意見を募集する。その集まった意見を施策に反映しよ



うというものです。今後、重要な施策について、町ホームページと広報紙を活用して、皆様にお知らせしますので、ご意見を聞かせてほしいと思います。

続いて、財政状況については、収入役からご説明します。

(収入役) 夕張市での財政破綻以後、公共サービスの低下等を懸念される方もいると思いますので、愛南町の財政状況についてお知ら

せたいと思えます。

現在、合併後の3年間で無駄な経費を削減し、緊急性のない事業は先送りをするなどの集中と選択に徹した行政運営に努めた結果、平成19年度の実質収支も約4億6千万円の黒字になりました。また、町の預金を崩さずに、借金を返済していますので、財政的には健全な運営をしています。どうか、ご安心をいただければと思います。

(町長) 本日は、限られた時間の中で、貴重なご意見をお聞かせいただき、誠にありがとうございます。

今後、美しい生活環境づくりや子育て支援等の充実に向け、できることから実施をしていきたいと思えますので、今後とも、皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。



写真前列左から、大西優里さん(御荘)、宮本積夏さん(城辺)、倉田歩さん(城辺)、谷口町長、和田博江さん(西海)、山下文子さん(一本松)、安田真紀さん(城辺)

中央左から、鎌田夏希さん(城辺)、島津由紀子さん(一本松)、山口園子さん(城辺)

後列左から、三好眞一さん(内海)、野平真一郎さん(御荘)、武久実雄さん(御荘)、猪野幹さん(城辺)、櫻田美恵さん(内海)、菊地秀太さん(城辺)、伊藤克敏さん(西海)、岡原功兒さん(一本松)